

要求実現の力をもつ
労働組合をめざし
全国で組織建設と
拡大をすすめよう！



発行所
JMITU
(日本金属製造情報通信労働組合)
〒114-0023 東京都北区滝野川
3-3-1 ユニオンコーポ3階
電話 (03) 5961-5601~2
FAX (03) 5961-5603
※組織外、無断転載禁止

17年末一時金 90支部分会に回答

組合員平均**601,750円** (2・11カ月) 支部平均 **552,102円** (1・91カ月)

カネテック、松永製作、三和機材などストライキ。大阪は決起集会・デモ

「一言メッセージ」で職場の声！ 闘争態勢の強化を！

JMITUの17年末一時金闘争は10日までに回答が引き出された95支部分会の平均は55万2102円(1・91カ月)、組合員一人平均は60万1750円(2・11カ月)で、昨年同水準の回答にとどまっています。生活実態や経済情勢を無視した低額回答に対し、各地でストライキや残業拒否など闘争態勢に入っています。次回15日(水)の統一交渉での大幅上積み、回答引き出しをめざします。

愛知・川本製作所支部は2次回答で昨年同額・同月数の114万2400円(3・79カ月)、京滋・カシフジ支部は昨年初回回答を上回る90万円+α(3・18カ月)を引き出しています。

業績悪化でこの数年間、低額回答が続いた東京・超音波工業支部では、昨年妥結の18万円を大幅に上回る60万円(2・0カ月)の回答を引き出しました。支部では秋闘回答の翌日から連日「朝ビラ」を配布。年末一時金回答に向けては、「受注・利益が回復して今年こそ」と、職場世論をつりあげてきました。超音波工業支部では、残業拒否態勢で次回団交を構え、上積みをはかります。



初回回答を受け文化シャッター本社にビラ入れ。出勤してくる社員のほとんどが受け取ります
(10月31日・東京・文京区)

一方、業績悪化の原因を労働者に押し付ける低額回答や回答延期もめだちます。全体として繁忙感が強く、受注も利益も上がっているなかでの昨年並みの低額回答は、職場の活力をそぐものであり、企業の将来展望にとってもマイナスです。「目標に達していない」「来期の受注が…」などとの理由を上げあくまで低額回答にこだわる姿勢は経営責任を労働者に転嫁するものであり、抗議の意思を示す必要があります。

「テンションが下がってしまった」-カネテック支部2時間スト

残業や休日出勤で納期をまもる職場の繁忙感や、「今年こそ大幅一時金を」の思いに応えない不誠実な回答に対し、各地でストライキや残業拒否、組合旗掲揚、腕章・ワッペン着用の闘争態勢に入るとともに、社長への「一言メッセージ」で職場の思いをぶつけています。

昨年をわずかに上回る61万1639円(2・10カ月)の長野・カネテック支部は回答翌8日、15時から2時間のストライキに突入し、そのまま残業拒否。スト集会で集まった「一言メッセージ」には、「こんなに忙しく納期に間に合わせようと努力しているのに、テンションが下がってしまった」「これでは子どもの教育費が出ない。家族で出かけることもできず、貯金もできない」など、切実な声が寄せられました。支部では、次回15日の統一交渉をはさんで分会長や青婦部役員も入った団交で職場・組合員の声をぶつけ、15日の回答次第では残業拒否に突入します。西沢支部委員長は、「職場は残業続き。2・1カ月ではどうしようもないとの不満が強い。闘争態勢強化で大幅上積みを求めていく」といいます。

組合旗掲揚、腕章・ワッペン着用。残業拒否など闘争態勢を強

生活実態や要求に向き合わない低額回答に対し、各地で闘争態勢が強化されています。回答翌日にはカネテック支部のほか、東京・島崎製作所支部、神奈川・松永製作所支部、長野・マグエエース支部、千葉・三和機材支部がストに突入。埼玉地本では東京セキスイ、日信工業など主だった支部が組合旗を掲揚し、サンウエーブ支部では机に三角錐を立てました。大阪地本は決起集会を開き、約100人が梅田の繁華街に向けデモしました。文化シャッター労連（秋田・姫路など）は、6日から各支部が組合旗掲揚、腕章・ワッペン闘争に入り、次回15日の回答次第では15日から20日まで残業拒否闘争に突入します。

技術継承、定年、残業計算、結婚一時金で前進回答

秋闘は10日現在138支部分会が要求を提出し45支部分会で前進回答。この間新たに「定年日を誕生翌月の20日に変更」（東京・多摩川スカイプレジション）、「技術技能の継承や経営について協議」（千葉・三和機材）、「残業計算を10分、15分→1分単位」（文化シャッター）、「結婚一時金5万円→6万円」（長野・丸子警報器）など、年末一時金闘争のなかでも前進回答を引き出しています。秋闘に続いて年末闘争でも、「アベ働き方改悪」に反対し、本物の「働き方改革」を求める職場決議が上げられています。

「9条改憲発議とめよう」 4万人が国会を包囲



4万人が集まった11・3国会包囲行動
(写真＝東京・高澤通信員)

安倍政権による改憲への加速を許さず、「9条改憲をみんなで止めよう」と月3日、国会周辺には4万人、JMITUからは200人が集まり、図書館前は身動きできないほどの参加者で埋まりました。

枝野立憲民主党代表、志位共産党委員長、福島社民党副党首など立憲野党の代表があいさつ。「国会のなかのたたかいと、国民のみなさんと歩むたたかいを車の両輪に」（枝野）、「改憲の国会発議を絶対に許さない」（志位）などと、9条改憲ストップへ、市民と野党の共闘の前進をよびかけました。

女性の執行委員ができ女性の要求が前進 大阪・野村製作所支部

【大阪・野村製作所支部書記長・成川良和】野村製作所支部では、今年度の定期大会より執行委員に2人の青年が新任。うち1人は支部初めての女性執行委員です。10人の執行委員の中で6人が青年となり、少しずつですが世代交代がすすんでいます。

組合員全体では3分2が青年で、うち8人が女性です。17秋闘では、さっそく女性執行委員が中心となり夏より秋闘アンケートにとりくみ、女性の要求をまとめることができました。

要求では女子トイレの改善意見が多く出され、職場討議のなかでは出にくい声がアンケートを通じてわかりました。支部要求11項目のうち3項目で女性の要求がまとまり実現を迫るなか、「女子トイレ改善で疑似音をつける」「妊娠中の作業着について調査する」「妊娠中の通院休暇1日/月の休暇（出勤扱い）」と前進の回答を得ました。

要求をつかむことの難しさを感じましたが、執行部に女性が入ることで要求が前進した秋闘となりました。

「JMITU」(メールニュース版)は、闘争時の「情報」、組織建設の経験・教訓なども含め適時発行していきます。各支部・分会などひろく発信してください。